

受章おめでとうございます

長年にわたり、社会のために尽力した叙勲などの受章者が発表され、市内では次の方々が受章しました。皆さん、受章おめでとうございます。

平成26年 春の叙勲

* 旭日双光章

山本 恵美子さん
(元 牛久市議会議員)



* 瑞宝小綬章

中田 貴己さん
(元 鹿児島海上保安部
巡視船はやと業務管理官)



* 瑞宝小綬章

有馬 征太郎さん
(元 陸上自衛隊
第6師団副師団長)

第22回危険業務従事者叙勲

* 瑞宝双光章

杉山 勝郎さん
(元 警視庁警部)



* 瑞宝双光章

高木 猛さん
(元 東京消防庁消防監)



* 瑞宝双光章

生井沢 茂さん
(元 茨城県警部)



* 瑞宝双光章

三橋 義勝さん
(元 警視庁警部)



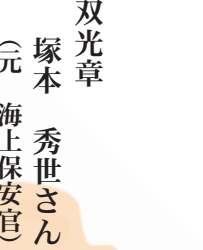
* 瑞宝双光章

渡邊 四志彦さん
(元 警視庁警部)



* 瑞宝双光章

秋葉 弘さん
(元 警視庁警部)



* 瑞宝双光章

塚本 秀世さん
(元 海上保安官)

* 瑞宝单光章

齋藤 富榮さん
(元 警視庁警部)



* 瑞宝单光章

渡辺 正志さん
(元 警視庁警部)

※今回市内の方で、叙勲を受章された方は13人いらっしゃいますが、掲載の許可をいただいた方のみ掲載しています。

原子力災害対策について茨城県へ要請

6月16日、稲敷地区6市町村放射能対策協議会会長・池辺勝幸牛久市長は牛久市役所で「原子力災害対策についての要請書」を茨城県に提出することを発表しました。

同協議会は牛久市、阿見町、稲敷市、利根町、美浦村、龍ヶ崎市の6市町村で構成され、放射能対策についての情報共有や東京電力への賠償請求などを共同で行っています。



原子力災害対策についての要請書について会見する池辺市長(写真左から3人目)たち

池辺市長は「茨城県の原子力災害対策は30km圏内のみを対象にしており、福島第一原子力発電所事故の教訓を軽視している。対策は県内全域で考えていくべき」と話しました。要請書には「①原子力災害対策については、30km圏内にとらわれることなく、県内全域の安全対策として取り組むこと、②事故発生通報体制、ヨウ素剤の備蓄および配備などの整備、③30km圏外の市町村にも情報提供と意見表明の機会を設けること」などの3項目を記し、住民の健康と安全を守るため対策を講じることを県に求めました。

「牛久駅西側地域整備基本計画策定」に対する答申

5月23日、牛久市役所で「第7回都市計画マスタープラン審議会」が開催され、山岡恒夫会長(都市計画マスタープラン審議会(牛久駅西側地域整備基本計画策定審議会))から池辺勝幸市長へ「牛久駅西側地域整備基本計画策定」に対する答申書が手渡されました。

山岡会長は、「さまざまな意見や提案に関する活発な議論の末、牛久駅西側地域における課題や方針などを取りまとめ、整理しました。計画の推進には、市民・行政をはじめ、まちづくりを携わる団体や事業者が協力・連携しながら、各自の役割を十分に果たされることを期待します」と答申。池辺市長は「牛久の『まち』の本質を入れ替えて若い人にも住みやすく、来てもらえる『まち』に転換を図り、人口減少にあっても、大勢の人たちが住む『まち』を継続する。この答申を最大に活かしたい」と、お礼を述べました。



答申書を受け取った池辺市長と都市計画マスタープラン審議会のメンバー

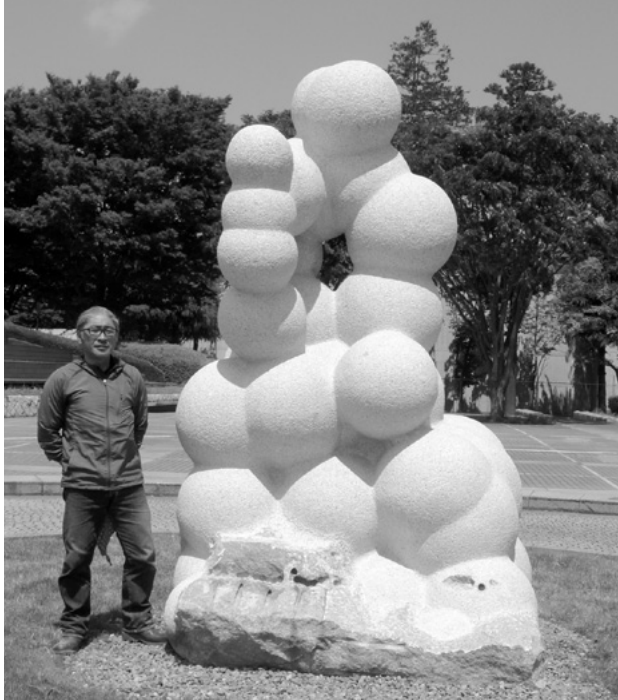
在バンクーバー日本国総領事館総領事が表敬訪問

5月28日、カナダの在バンクーバー日本国総領事館総領事の岡田誠司氏が日本に一時帰国するにあたり、池辺勝幸市長を表敬訪問しました。

バンクーバーは、姉妹都市であるカナダ・ホワイトホース市への経由地であり、牛久市青少年団がホワイトホース市を訪問する際は、バンクーバーの日本国総領事館を表敬訪問するのが通例となっています。岡田総領事は「牛久市とホワイトホース市のように、約30年も交流が続くことは珍しい。青少年の交流・文化的理解は重要なので、国としても支援したい」と話しました。今年の夏にはホワイトホース市の学生が来日し、牛久市にホームステイする予定です。



姉妹都市交流について話す岡田総領事(写真右)



うしく現代美術展出品作家の 作品「GLOBE」番人」展示中

市中央生涯学習センターロータリーの展示が、5月から新しい作品に変わりました。市では、「うしく現代美術展」の出品作家の作品を市民の皆さんに見ていただくとうと、平成24年度から「公共施設展示事業」を実施しています。今年度は、屋外で石彫作家・鈴木典生氏の作品を来年3月まで展示します。

作品は真鍋産の白御影石で製作されており、タイトルは「GLOBE」番人」です。ぜひご覧ください。

作家コメント「球体は人の年齢を直径とした大きさで、大小さまざまな球体の構成から成り立っています。ある製作者が仁王像を作るために荒取り(おおまかな形)をしたまま放置されていた石に対して、その形態に合わせて、私なりの意志を吹き込み、約25年間の空気にさらされた部分も残しつつ、現代の守り人をつくりました」

ウォーキングで牛久の魅力再発見！ ……

5月17日、「第9回牛久健康ウォーク2014」が開催され、市内外から約500人が新緑が映える市内を歩きました。今回のコースは「ヘルスロード」の「牛久大仏コース」約22kmと「牛久沼かっぱの小径コース」約11km。「ヘルスロード」とは、誰もが気軽に歩け、ふるさとの再発見と健康増進を兼ねたウォーキングコースのことで、県内では約240コースあり、牛久市では上記2つのコースを含め、9つのコースが指定を受けています。

「牛久沼かっぱの小径コース」では、参加者たちは牛久城址や牛久市ゆかりの画家・小川芋銭の記念館である雲魚亭など、牛久市の歴史や自然に触れながら、ウォーキングを楽しみました。市内小学校に通う参加者の女兒は「コース途中の牛久城址付近から富士山が見えた。実際に見るのは初めてなので、歩いて来て良かった」と話していました。

ゴール後は、抽選会のほか、牛久産小麦の「ゆめかおり」を使ったお菓子や「うしく河童米」の試食などが行われ、参加者たちの心とお腹を満たすウォーキングとなりました。



正源寺を通過する参加者

カナダの学生が牛久市のまちづくりを研究……………



牛久市 について熱心に質問をするトンプソン・リバーズ大学の学生たち

5月15日、カナダのトンプソン・リバーズ大学から、学生ら17人が日本の地理やまちづくりの研究のため、牛久市を訪問しました。

メンバーのリーダーであり、同大学助教授であるトマス・ワルデチェックさんは、日本に留学して以来、牛久市などのまちづくりについて研究をしています。学生たちは和やかな雰囲気の中でも「スローシティのまちづくり」や「地域の要望を聞くシステムはあるのか」などを質問し、池辺市長の説明を熱心に聞き取っていました。



1. ボランティアなどから花植えを教わる子どもたち
2. うしくフラワーコンテスト会場の様子



花も展示され(右写真)、来場者たちの目を楽しませていました。神戸さんは「花のまちづくりは人づくりにもつながると思います。花いっぱいなの明るいまちにしていきたいですね」と話していました。

中央生涯学習センター駐車場脇で同会主催の「第7回うしくフラワーコンテスト」が開催され、「ハンギングバスケット部門」に71点、「コンテナガーデン部門」に51点の計122点が出品されました。会場には、「牛久ふれあい保育園」と「奥野さくらふれあい保育園」の園児76人が「花育」活動で植えた

園」で、年中・年長組の子どもたちを対象に「花育」活動が行われました。「花育」活動は、子どもたちが花や緑に親しみ、育てる機会を通して、優しさや美しさを感じる気持ちや育むことを目的としています。当日は、子どもたちに植え込み用の花やかごが配られ、土作りから植え込みまで子どもたち自身で行いました。指導にあたった「うしく花と緑の会」代表の神戸幸子さ

花で心を育てる



んは「朝1番に自分のお花におはようと言つてあげてくださいね」と子どもたちに声を掛けていました。

自分だけの鉢植えができた子どもたちは「うれしい」「きれい」などと喜び、乳児組の子どもたちも興味津々に集まって、花と笑顔でいっぱいになりました。

また、5月25日から31日まで、市

第3回市長杯争奪牛久スポーツ吹矢大会

<5月17日 牛久運動公園メインアリーナ 90人出場>

(敬称略)

順位	上級クラス: 三段~六段
優勝	渡井 敏雄
	中級クラス: 初段~二段
	中屋 咲子



上級クラス入賞者

スポーツチャンピオンフェスティバル2014 第11回牛久遠的・近的弓道大会 近的の部結果

<5月3日 牛久運動広場・弓道場 100人出場>

※遠的の部は9月に実施予定。

(敬称略)

競技種目	順位	高校生の部	一般の部
近的個人	優勝	笹川 佑香(牛久高等学校)	坂本 允
	射詰優勝	笹川 佑香(牛久高等学校)	高木 勉
競技種目	順位	チーム名	
高校団体	優勝	牛久栄進高等学校 A チーム (刘 士豪・森 康彰・本多 祥平)	

平成26年度牛久市民硬式テニス ミックダブルス大会結果

<5月11日 牛久運動公園テニスコート 30ペア出場>

(敬称略)

順位	1位トーナメント
優勝	池田 和宏・池田 有理
	2位トーナメント
	橋本 利明・松山 成江
	3位トーナメント
	藤田 隆・小松 恵美子